

しおんだより VOL.60



おかげさまでしおんだよりも60号に到達！

当院をご利用いただくみなさんに、病院の「今」をお伝えしたいと考えて始めた「しおんだより」。ちょうど、本号で60号になりました。月に1回、欠かさず発行しているので、ちょうどまる5年が経過したということになります。

今年も、ハロウィンの季節がやってきました。病棟の飾り付けは、こんな感じです。

5年前の2020年の今頃は、新型コロナウイルス感染症が、少しずつ、私たちの身の回りに忍び込んできていた時代で、東京オリンピックの開催も1年延期されました。将来、どこかのクイズに出てきそうなぐらい、信じられないことが起こっていましたね。

当院も、理念や基本的な立ち位置や取り組み方は変わっていませんが、個人的には新型コロナウイルス感染症感染拡大の前後で、当院のあり方は大きく変わったと感じています。なんだかずいぶん前の話のようですが、まだ5年なんですね。

たった5年、されど5年。「先生の病院は変わったねえ」という反応を時々いただきますが、一番変わったのは、病院の雰囲気だと思います。皆さん方はどう思われますか。私は、その理由として、当院の看護部のあり方が変わったことが大きいと感じています。

病院ではいろんな職種が活躍していますが、やはり、患者さんとの接点が一番多いのは看護師さんです。当院看護部は、「その人らしさを尊重した、温もりのある安全で安心の看護を提供します」ということを理念に掲げています。堀看護部長のもと、当院の雰囲気を見て、入職していただく若手の看護師さんが増えてきました。みんなで、思温病院ならではのホスピタリティを考え、5年後の当院のあり方を夢見て頑張っ

全日本病院学会に参加してきました

10月10日、11日の2日間。札幌で第66回全日本病院学会が開催され、当院からは薬剤部の出雲先生の口頭発表がありましたので、私も参加してきました。

大阪は台風23号の影響もあってか、まだ蒸し暑い天気でしたが、札幌は14度ぐらいしかなく、空港に着いた途端、季節が瞬間に移動した感じがありました。学会は札幌駅から少し離れたところにありますが、4000名近い参加者があり、会場はとてにぎやか。

出雲先生の発表は薬局で在宅の経験があったからこそ、患者さんの退院に向けて良い提案ができた、という内容でしたが、同じセッションの病院薬剤師さんたちの発表も、「なるほど、そういう取組をされているんだな」と感じるものも多く、とても勉強になりました。毎日の取組や気づきを、こうやって学会発表することは大切だと改めて思いました。



参加者の多くは当院のような私立の病院のスタッフでした。大会長と理事長が出迎えてくれました。

やっぱり大阪とは違うなぁと実感

もう15年ぐらいになりますが、週末や出張先は、朝、走るようにしています（それでも、なかなか痩せないのは、やっぱり食べ過ぎなんでしょうね…）。

全日本病院学会でも、二日目の朝、6時半頃には起き出してホテルの周りをランニングしていました。気温は大阪とずいぶん異なり肌寒いぐらいでしたが、5分も走ると身体が温まってきて、心地よい感じに…。



朝のランニング中に見かけたのは、なんとリスでした！

そんなランニングも終盤。少し前の道路を横切る茶色い陰が。少し走った先の植え込みに隠れていたのは、なんと、リスでした。大阪での朝欄で出会うのは、たいていはネズミかイタチですが…。リスと遭遇するなんて！と一人で興奮していたら、地元の先生に「北海道あるあるですよ」と言われました。

その代わり、北海道の人にとっては、大阪の焼きそば定食が理解できないって言われました。「そんなの、普通やんねえ」といいながら、一口に日本といっても、南北に長いこともあってか、色々ちがうんだなと感じさせられました。（文責：狭間研至）

しおんだより 第60号 発行日：令和7年10月15日

発行人：狭間研至 発行元：医療法人嘉健会 思温病院

☎557-0034 大阪市西成区松1-1-31 電話06-6657-3711 HP: www.shion-hp.or.jp